

事業番号	02 03 01	事業改善シート(26年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	信州まつもと空港活性化事業			担当課	部局	企画振興部	
総合5か年計画	プロジェクト	2-1農山村産業クラスター形成プロジェクト		課・室	交通政策課		
	施策の総合的展開	5-1 高速交通・情報通信ネットワークの充実		E-mail	kotsu@pref.nagano.lg.jp		
		3 信州まつもと空港の活性化		実施期間	H6 ~		

1 事業の概要

目指す姿	信州まつもと空港にかかる広報宣伝及び利用者・旅行会社等への支援を関係機関と連携して取り組み、信州まつもと空港発着の定期便の安定的な運航の確保及び路線拡充に向けた利用拡大を目指す。 成果目標: 信州まつもと空港利用者数 76千人(H23) → 120千人(H29)
------	--

現状(予算編成時)	○平成25年度において、信州まつもと空港発着の札幌線と福岡線を合わせた定期便の利用率は、夏季(7月~9月)では84.0%と好調である一方、冬季(11月~1月)では66.9%と落ち込みが激しく、年間では75.4%となっている。
-----------	--

県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他) 【左記の説明、根拠法令等】 市町村・経済団体とともに、県営空港の活性化に向けて県が主体的に取り組む必要がある。 信州まつもと空港利用促進協議会規約 県民との協働による実施: 実施は困難
----------	--

成果目標・事業内容	① 成果目標(H26)						
	○定期便等の利用者数 90千人 (設定理由: 空港の利用状況を表す定期便とチャーター便の利用者数について、定期便の利用率向上とチャーター便運航数の増加を目指して90千人と設定)						
	○定期便の利用率 75% (設定理由: 路線拡充(現行路線の複便化、新規路線の開設)を図る際の目安となる定期便利用率の向上を目指して、75%と設定)						
	② 事業内容 (単位: 千円)						
		項目	実施方法	H26事業実績		H26 (当初)	H26 (決算)
	1. 信州まつもと空港利用促進協議会負担金	負担金	負担先(信州まつもと空港利用促進協議会) ①定期便の利用拡大 ＜安定的な需要の確保＞ ・マスメディア等を活用した県内、就航先等でのPR ・冬期間の旅行商品造成支援 ＜新規需要の開拓＞ ・広域観光ルート造成に向けたファムトリップの実施 ②季節運航便(大阪線)の利用者確保 ・誘客イベントでのPR、運航情報の周知 ③チャーター便の運航支援 ④シャトルバス運行支援による空港アクセスの確保	20,100	23,775	20,100	
	2. 空の日事業負担金	負担金	負担先(スカイフェスティバルin松本実行委員会) 『スカイフェスティバル in 松本』の開催 (県民の方が空港に親しんでもらうためのイベント)	300	300	300	
	3. 信州まつもと空港路線拡充事業補助金	補助金	信州まつもと空港への路線開設に必要な機器整備費用等への支援(補助率: 県10/10)(補助先: 日本航空(株))	2,200	1,963	0	
	合計			22,600	26,038	20,400	

事業コスト	区分(単位: 千円)	24年度	25年度	26年度	27年度
	前年度繰越				
	当初予算	19,200	19,200	22,600	20,400
	補正予算	11,567		3,675	
	合計(A)	30,767	19,200	26,275	20,400
	一般財源	19,200	19,200	26,275	20,400
	県債				
	国庫支出金				
	その他	11,567	0	0	0
	決算額(B)	30,759	19,200	26,038	
概算人員数(人)	3.00	3.00	3.00	3.00	
概算人員費(C)	24,774	24,774	24,774	24,774	
概算事業費(B(A)+C)	55,533	43,974	50,812	45,174	

成果目標の達成状況					
項目	H25末(実績)	H26			H27
		目標	成果	達成状況	目標
空港利用者数	85千人	90千人	96.8千人	達成	120千人
国内定期便利用率	75.4%	75%	73.2%	未達成	70%

目標に対する成果の状況	空港利用者数については、定期便の冬期間における利用拡大、大阪線の季節運航便としての復活、国内チャーター便の運航増加により、目標を達成することができた。 一方、定期便利用率については、座席数の多い機材の運航頻度の増加により、目標を下回った。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 平成27年3月に福岡線が複便化(1日2往復)されたことから、九州からの誘客促進に向けたPRの強化など、その定着に向けた取組を展開するとともに、季節運航便として2年目となる大阪線についても、運航期間の拡大、通年運航の実現に向けた利用促進策を実施していく。
--------------------	---